



優秀賞 (水回り部門)

タイトル 『つかずはなれず』充実世帯の二人住まい

タイプ 持家共同建

講評

バス・サニタリーのリフォームにあたり、機器の入れ替えだけでなく、結果的に面積が抑えられたにも関わらず、生活動線の見直しで使い勝手が向上する提案がされている。壁の一部に大胆な色使いで空間に変化を生んでいる点も見逃せない。

リフォーム前後の写真

施工前



リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

- ①老朽化した設備機器を一新したい。
 - ②狭いお風呂を広くしたい。
 - ③定年後の暮らしを快適に過ごしたい。
- 《宅内配管はすべて交換》
- ユニットバスは、1116から1317サイズに変更。
- 洗面トイレスペースは、壁ひとつ分狭くなったため、洗濯機はキッチン脇に移動、トイレの間仕切りをなくした。奥の壁はアクセントウォールに。さらに、一部を凹ませ蛍光灯をいれ、広く見えるよう工夫した。

《ワンルームの水周り》

洗面所は以前より実寸は狭くはなれずなのに広々と使えます。洗濯機がないので、乱雑にならず、いつも美しく保てます。浴室の段差がなくなり敷居がフラットになったので、出入りが楽になりました。これで老後も安心です。

足を伸ばして浴槽に浸かれると夫が喜んでます。

特に配慮した住宅性能：段差のないバリアフリーの設計に。調湿機能のある珪藻土の壁、コルクの床材など自然素材。

データ

所在地	埼玉県越谷市	構造/築後年数	鉄骨鉄筋コンクリート造/ 25年
該当工事面積	5 m ² /総工事床面積 76 m ²	該当部分工事費	170 万円/総工事費 930 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満： 2人/65歳以上： 人/15歳未満： 人/ペット： 人		
設計者		担当者	加藤 明子
施工者	(有)一・番家工務店	担当者	渡辺 昌宏

リフォーム前

リフォーム後

